

背脂肪計には、リーンメーターとエニースキャンの2機種があります。

原理的には同じ測定方法を使っておりますが、エニースキャンの方が若干薄めに出る傾向があります。

\* 公的機関（畜産試験場など）や大学などの研究機関に関しては、試験データを取り研究発表などに使用することがあります。海外の古い文献や研究発表は、昔から活用されているリーンメーターでデータを取っているため、それらのデータの引用・比較などを行う場合はリーンメーターが最適です。

## Q&A

Q. 使い方（測定部位に塗布するものは？）

A. 豚の肌と測定プローブの間に空気が入らないように、流体を塗布して使用します。推奨は流動パラフィンですが、サラダ油、ベビーオイルでも構いません。

Q. 画像式鑑定器用ジェルが使えますか？

A. 使用できます。

但し、使用する際は測定部位にジェルを塗布した後、皮膚に馴染むよう手ですり込み、その上から更に 500 円玉分くらいの大きさの円を作るようにジェルを塗布してプローブをなじませて下さい。

Q. 幾つかの異なる測定値が表示されますが、故障でしょうか。

A. 背脂肪計は、脂肪の層の境界に反射した超音波の信号を感知して、各層までの深さ＝厚み（リーンメーターの場合は2層目までのみ）を数値化しています。信号が上手く透過しない場合、信号が途切れて上手く感知できず、数字が交互に出ることがあるため、まずは、測定部位の体毛を刈り、プローブと肌の間に空気が入り込まないようにして試して下さい。それでも上手くいかない個体も存在するので、必要に応じてボディコンディションを参考にしながらどちらの数字を選ぶか判断が必要です。

頻繁に起こる場合は、個体差によるものもありますが、皮膚に塗布する流動パラフィン等が皮膚になじんでいない（秋～冬の皮膚の乾燥など）か、プローブの磨耗が疑われます。

Q. （エニースキャン）第3脂肪層の表示が出ないことがあります。

豚の脂肪は3層に分かれており、表皮に近い側から第1脂肪層・第2脂肪層・第3脂肪層と呼ばれます。

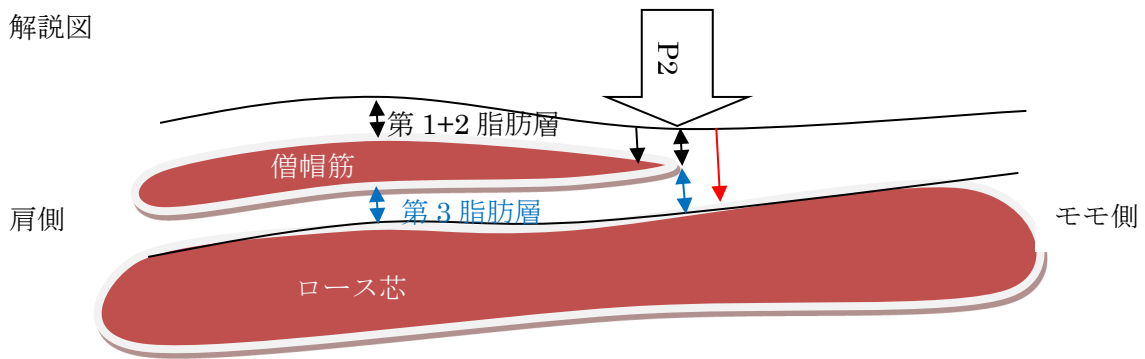
第1～2脂肪層は表皮側に位置しています。第3脂肪層は僧帽筋と呼ばれる肩甲骨を支えている筋肉の内側に位置している脂肪の層であり、背脂肪計の測定部位はその筋肉が無くなる境目付近となるため、筋肉の層が完全に消失していないと筋肉の層に阻まれて3層目の脂肪が測れないために起こる現象です（解説図参照）。

Q. なぜ、第2脂肪層までを指標としますか？

第3層目の脂肪層は、

1. 測れないことがある。
2. 増減が最も激しく、また凹凸のあるロース（赤肉）との境目でもあるため、測定位置が少し外れただけで、測定値の変化が激しいため指標に向かない為です。

解説図



Q. 背脂肪計のプローブ位置の違いによる表示の変化

A. 第3脂肪層だけが層防筋の下を走っているため、超音波信号が届かず認識できません。  
↓を通過すると信号が僧帽筋にあたってしまふ為、第1+2層しか認識できませんが、↓を通過すると第3脂肪層も認識し、表示されます。

P2点（測定部位）は、肩ロースとロースの境目付近にあります。

リーンメーターとエニースキャンBFの比較		
	リーンメーター	エニースキャンBF
重量 (g)	340	173
サイズ (cm)	18X7X2.5	11X7X2.4
充電時間 (hr)	12~24	3
稼働時間 (hr)	6~10	11
バッテリー	ニッケル水素	リチウムイオン
測定	第2層	第1~3層同時
その他	操作は両手で行う	専用ベルトで腕に装着し、片手での操作可能

問い合わせ：グローバルピッグファーム株式会社

Tel:0279-52-2906 Fax:0279-52-2996

E-mail:kizai@gpf.co.jp